



<プレスリリース>

2016年9月2日

各 位

CYBERDYNE 株式会社
代表取締役社長 山海嘉之

医療用HAL®、国立病院機構新潟病院等で承認後初の難病治療

～神経・筋難病患者向けに公的な医療保険診療を開始～

国立病院機構新潟病院（住所 新潟県柏崎市赤坂町3番52号）と国立病院機構徳島病院（住所 徳島県吉野川市鴨島町敷地1354）は、本日9月2日、緩徐進行性の神経・筋疾患（※1）の進行抑制治療を目的とする世界初のロボット治療機器「HAL®医療用下肢タイプ」（以下、「医療用HAL®」）を利用して、昨年11月25日に厚生労働省より医療機器の製造販売承認を取得してから初めて難病患者に対して治療を実施することとなりました。

今後は、施設基準等を満たした複数の医療機関において、通常の公的医療保険診療で医療用HAL®が使われることとなります。なお、医療用HAL®による治療技術に対しては、2016年4月25日に、ロボット治療として世界で初めて一般の公的医療保険の償還価格が決定しています。

国立病院機構新潟病院における今回の治療対象は、下腿と足の筋萎縮と感覚低下を起こす「シャルコー・マリー・トゥース病（CMT）」の10歳代女性や四肢の筋力低下および筋萎縮や球麻痺を起こす「球脊髄性筋萎縮症（SBMA）」の50歳代男性などの複数の難病患者で、当社が医療用HAL®をレンタルにて提供し、同病院で難病治療を実施します。この難病治療にあたる同病院の神経内科の中島孝副院長によると『今まで全く治療方法がなかった神経・筋難病疾患に、この画期的な治療法が使えるようになった。他の様々な疾患にも、HAL®を使えるように適応拡大を進めていきたい』とのことです。

なお、9月2日現在、医療用HAL®の導入に関して多数の問い合わせと、すでに25以上の医療機関から導入の内示を得ています。当社としましては、今後は、各地域に中核病院の拠点化を進めながら、順次、拡充していく予定です。

（参考）本製品の特徴

HAL®医療用下肢タイプは、緩徐進行性の神経・筋疾患患者（※1）を対象に2015年11月に「生体信号反応式運動機能改善装置」という新医療機器として薬事承認された治療ロボットです。装着者が身体を動かそうとした時、脳から脊髄～運動ニューロンを介して筋肉に神経信号が伝わり、筋骨格系が動作します。このとき、脳・神経系由来の微弱な生体電位信号（BES : Bio-Electrical Signal）を皮膚表面から検出します。HAL®医療用下肢タイプは、装着者の状態や関節の部位に応じて「サイバニック随意制御・サイバニック自律制御・サイバニックインピーダンス制御」等の複数の制御モード（※2）を組み合わせることができ、生体電位信号の情報や各種センサ情報を用いて各関節に配置された



パワーユニットを駆動させます。これにより、装着者の動作意思に従った動作を実現します。HAL[®] 医療用下肢タイプによる当該疾患患者に対する治療処置は、公的医療保険の適用となっています。

※1 対象疾患

以下の緩徐進行性の神経・筋難病疾患患者

- ・脊髄性筋萎縮症 (SMA)
- ・球脊髄性筋萎縮症 (SBMA)
- ・筋萎縮性側索硬化症 (ALS)
- ・シャルコー・マリー・トゥース病 (CMT)
- ・遠位型ミオパチー
- ・封入体筋炎 (IBM)
- ・先天性ミオパチー
- ・筋ジストロフィー

※2 複数の制御モード (目的に合わせて選択可能)

サイバニック随意制御 (CVC) モード : 生体電位信号や姿勢等に基づいてアシストを行うモード

サイバニック自律制御 (CAC) モード : あらかじめプログラムされた脚の軌道に合わせたアシストを行うモード

サイバニックインピーダンス制御 (CIC) モード : 関節の動きを滑らかにしたり、違和感を軽減したりするモード

会社概要:

社 名 CYBERDYNE 株式会社(サイバーダイン)
住 所 茨城県つくば市学園南二丁目2番地1
資本金等 267億43百万円
設 立 2004年6月24日
事業内容 ロボットスーツ等の開発・製造・販売
証券コード 7779

お問い合わせ先

CYBERDYNE 株式会社
<http://www.cyberdyne.jp>
TEL (029) 869-9981 (広報・IR)
担当: 田中・宇賀
広報: media@cyberdyne.jp
IR: ir@cyberdyne.jp